

太陽光発電事業 見直し向け要請

鴨川市長に5団体

鴨川市北部で計画が進む大規模太陽光発電施設（メガソーラー）建設に反対している市民団体「鴨川の山と川と海を守る会」など5団体は6日、県が4月に出した林地開発許可の凍結と事業の見直しを森田健作知事に促すよう、鴨川市の亀田郁夫市長に署名5551筆を添えて要請した。同会などは9日、森田知事に許可の凍結などを求める。

5団体は、9月以降に相次いだ台風や大雨が過去に経験したことのない雨量や風速を記録したことから、許可された調整池や排水施設が耐えられるかどうか疑念があると指摘。亀田市長に対し、県の林地開発許可を凍結して事業を見直すよう知事に要請するよう求めた。



亀田郁夫市長（左から4人目）に署名簿を手渡す勝又国江さん（同2人目）ら市民団体の代表＝鴨川市

朝日新聞

(2019.12.7 朝刊 5は'27)

読売新聞

(2019.12.7 朝刊 房後 33)

鴨川太陽光建設見直し要望

豪雨災害懸念 住民ら署名提出

鴨川市池田の山林で進む大規模太陽光発電所の建設計画を巡り、反対する住民団体や漁協などが6日、この秋の台風や記録的大雨を

受け、県に林地開発許可の凍結と計画見直しを求める要望書と、5551人分の署名を亀田郁夫市長に手渡した。市長は「(署名の)



亀田市長（右から3人目）に署名簿を手渡す住民団体の代表ら

重みは分かった。県に伝える」と応じた。

計画では、旧鴨川有料道路沿いにある山林約146畝の用地に約47万枚（出力100が・ワ）の太陽光パネルを設置する。一部住民らが反対していたが、県が今年4月、建設の前提とな

る林地開発許可を出した。

要望書を提出したのは鴨川の山と川と海を守る会や市漁協など5団体。10月の記録的大雨では、計画を進める「AS鴨川ソーラーパワー合同会社」が採用した1時間あたりの降水量の基準を上回る雨が市内で降った。住民らは「施設が建設され、豪雨による土砂災害、水害が起きたら取り返しがつかない」と訴えている。

市は4日、同社と11月8日付で新たな協定を締結したと発表した。事業を中止・終了する際の設備撤去や原状回復、災害時の損害賠償責任などが盛り込まれている。同社はこれに基づき着工の準備を進める見通しだ。